

「教学要綱」の不正記述13、及び、無視、削除された日蓮仏法の本義2つ

2026年3月29日

創価高・大学4期 函斉修

池田先生のご指導に全く違背の「教学要綱」の重大な不正、特に日蓮大聖人を否定し「釈尊が「寿量の仏」」に対して、先生のご指導より反証、私の拙文の記録も記しました。ご参考下さい。以下、下線太字は特に酷い不正です。

1. 『法華経』には、現実には亡くなった歴史上の釈尊と、「永遠の仏」としての釈尊の関係が示されている（中略）久遠実成の仏は、実は娑婆世界に存在し続け、衆生が仏を求めて身を惜しまず仏道修行に励むならば、いつでもその衆生のもとに出現する（28頁）

2. 竜の口の法難・佐渡流罪の以前と以後（「佐前・佐後」とも称される）において、大聖人の立場が明確に転換している（中略）それは釈尊から滅後悪世の弘通を託された地涌の菩薩、なかなずくその筆頭である上行菩薩としての役割を果たす立場である。（43頁）

3. 大聖人は自身を「如来の使い」「教主釈尊の御使い」と位置づけ、「教主釈尊の勅宣を頂戴して」『法華経』を説いている（45頁）

4. 日蓮大聖人は末法の衆生の救済を釈尊に代わって行う「末法の教主」（47頁）

5. 日蓮大聖人が、末法の衆生が成仏するための教えを探究し、『法華経』の肝心として「南無妙法蓮華経」を選び取っていかれた（68頁）

6. 大聖人は『開目抄』に『一念三千の法門は但法華経の本門・寿量品の文の底にしづめたり』と述べ、『久遠実成が説かれた如来寿量品第十六の文の底に、「法華経」の肝心である一念三千の法門が示されていると洞察された（70頁）

7. 大聖人御自身が竜の口の法難を契機に、釈尊から「南無妙法蓮華経」を付嘱された上行菩薩の使命に立ち、自らその「南無妙法蓮華経」を覚知したという究極的な自覚に到達されたことを意味する。そして、竜の口の法難以降、大聖人は、その自覚の上から文字曼荼羅を顕されていったのである。（76頁）

8. 大聖人が顕された文字曼荼羅の御本尊は、上行等の四菩薩が釈尊の脇士となっているので、この釈尊は『法華経』本門寿量品における釈尊、すなわち「寿量の仏」である。さらに、その「寿量の仏」そのものが、首題の「南無妙法蓮華経」の脇士に位置づけられている（78頁）

9. 「本門の教主釈尊を本尊とすべし」の意味は、それに続く文で、「いわゆる宝塔の内の釈迦・多宝外の諸仏ならびに上行等の四菩薩、脇士となるべし」と具体的に説明されている。」(80頁)

10. 日蓮大聖人は、単に釈尊から託され「南無妙法蓮華經」を弘める菩薩(91頁)

11. 如来神力品第二十一において釈尊は上行菩薩等の地涌の菩薩に付嘱を行うが、日蓮大聖人がその付嘱の法こそ「南無妙法蓮華經」であると覚知された(中略)大聖人が、その「南無妙法蓮華經」を具体的に三大秘法として示し、末法の衆生の成仏のための修行方法を確立して、それを弘通した(92頁)

12. 創価学会は、大聖人が覚知し説き示された一大秘法である「南無妙法蓮華經」を法宝として尊崇(158頁)

13. 現代において「南無妙法蓮華經」を正しく伝持する教団である創価学会が、僧宝に当たる(159頁) -と。

次に、「教学要綱」が無視、削除した**日蓮仏法の本義**2つが以下である。

1. 日蓮大聖人は**久遠元初の自受用身如来**である。
2. **人本尊**は日蓮大聖人、**法本尊**は南無妙法蓮華經、そして、日蓮大聖人の顕わされた曼荼羅御本尊は**人法一箇の御当体**である。

(**私見**) 上記の邪義の根底にあるのが一大聖人を「教主釈尊の御使い」と貶める一こと。ゆえに私は、邪義「教学要綱」は絶版にしなければならないと断言します。そして、その象徴的な記述が、8番一釈尊は『法華經』本門寿量品における釈尊、すなわち「寿量の仏」である。(78頁)と10番一日蓮大聖人は、単に釈尊から託され「南無妙法蓮華經」を弘める菩薩(91頁)一である。この二つの最悪の邪義は、曼荼羅御本尊の相貌と矛盾します。ゆえに、この「教学要綱」の邪義を読んだ学会員は驚愕します！なぜなら、朝晩、御本尊様を拝する時、日蓮大聖人の脇士の釈迦が、主師親三徳具備の根本仏であられる日蓮大聖人に向かって一あなたは、私が託した「南無妙法蓮華經」を弘める単なる菩薩一と、対峙しているなどとは誰も信じるわけがないからです。法華經のどこにも書いていない。「教学要綱」の勝手な記述である。

特に、8番の一釈尊、即ち「寿量の仏」一が最悪の邪義である。それは、以下、池田先生のご指導に全く違背し、師敵対である。 - 2/14

池田大作全集 3 5 卷 2 5 6 頁「法華經 方便品・寿量品講義」
(池田名誉会長の『法華經 方便品・寿量品講義』2 寿量品 1 の 1 4 3 頁)
には一

寿量品では報身を中心に久遠の仏を説き、しかも、その一身に法・報・応の三身が一体となって具わっていることを明かしています。これを天台は「一身即三身・三身即一身」と言っています。三身一体で常住する仏一要するに、**寿量品の仏は**、深き境涯から発する「慈悲」と「智慧」の光で永遠に衆生を照らすのです。仏の深き“人格の光”は不滅です。それが衆生を導く力なのです。

小題「一身即三身・三身即一身の仏」とは日蓮大聖人
文底から言えば「一身即三身・三身即一身」の仏とは、南無妙法蓮華經如来すなわち日蓮大聖人です。 文上の久遠の仏においては、修行の結果として成就した報身の一身に三身が具わることが示されました。これに対して、文底においては、凡夫の一身に三身が本来、具わっているのです。これを「無作の三身」といいます。「無作」というのは、この大宇宙に本来、三身の徳が具わっており、作り改める必要がないからです。したがって、また、凡夫の姿を改めることなく、この仏身を成就することができるからです。一と。

(私見) なお、上記の**赤字文章**一が、2022年の「新版 法華經 方便品・自我偈講義」274頁で小題も含め完全削除です！また、この新版は**池田先生の原本のご指導**(1996年)の75カ所を変更、削除、改竄です！その実態を一<https://share.google/DcQaf0Yo9GmOx50A5> の62-82頁に記しましたのでご覧ください。**池田先生の法華經講義を改竄！**これは、言語道断である！

上記につき、親友中村誠氏から以下、寄稿頂きました。正論と拝します。

一
一身即三身を新版が削除した件ですが、「一身即三身」を説いた三大秘法抄の古写本が発見されたことにより、その箇所を消した正当性が失われます。この箇所です。「**寿量品に建立する所の本尊は五百塵点の当初より以来此土有縁深厚本有無作三身の教主釈尊是れなり、寿量品に云く「如来秘密神通之力」等云云、疏の九に云く「一身即三身なるを名けて秘と為し三身即一身なるを名けて密と為す**」一と。

そしてこの釈尊とは、「**本門の教主釈尊を本尊とすべし**」と報恩抄に説かれた仏と同一の仏ということがいえます。同じ三大秘法の本門の本尊に属する仏だからです。そして、本尊問答抄でとかれるこの釈尊とは違います。「**法華經の教主を本尊とす法華經の正意にはあらず**」。

なぜならこちらの釈尊は本尊ではなく脇士になるからです。報恩抄に「**所謂宝塔の内の釈迦多宝・外の諸仏・並に上行等の四菩薩脇士となるべし**」、或いは観心本尊抄に「**本門の釈尊を脇士と為す一閻浮提第一の本尊此の国に立つ可し**」と説かれている通りです。即ち、**五百塵点の当初より以来此土有縁深厚本有無作三身の教主釈尊=寿量品の仏=日蓮大聖人、**という結論がここから導かれます。又、**寿量品の仏が大聖人**であることも、新発見の真筆御書・本迹門勝劣の事（学会御書未掲載）より簡単に導くことができます。これは私の二冊目の本に詳しく論じてあります。従って、教学要綱のような意味不明な本尊と脇士の都合の良い同一化は無効です。

三大秘法抄の古写本が発見されたことにより、仮に釈迦本佛論者たちが大崎ルールに逃げ込んだとしても、学術的に窮地に追い込まれることとなります。一と。

（私見）上記中村氏の論考は最先端の資料を基にした、「教学要綱」への完璧な破邪顕正であると断言します。以下、**池田先生のご指導**を引用致します。

池田大作全集第72巻385頁 第十六回本部幹部会 には一

大聖人様は御義口伝に『**今日蓮等の類い南無妙法蓮華經と唱え奉る者は寿量品の本主なり**』と仰せになっております。寿量品を説かれた**釈尊が本主ではありません**。真実の信心を持ち、南無妙法蓮華經の当体となった我々こそ寿量品の本主であります。**寿量品の仏**であります。この寿量品の文底の南無妙法蓮華經を行ずるが故に、本門寿量の当体蓮華仏とは我々のことであると、深く信心を以て確信していかなければならないのであります」と。（中略）寿量品は一切經の要中の要である。その**寿量品の本主は、別しては御本仏・日蓮大聖人であられる**。そして、大聖人は、もったいなくも、総じて私ども門下をも「寿量品の本主」に含めてくださっている一と。

“御書の行者”学会は御本仏の教団 私どもは、常に御書を拝し御書を仰ぐ。常に「大聖人根本」である。御本仏の“末法の經典”が基準である。それが大聖人の真の門下である。大聖人の仰せを根本としなければ、だれびとの言うことであろうと、すべて己義であり、ウソである。仏法とは無縁の、自分勝手な作りごとにすぎない。さらに大聖人はこう仰せである。「仏滅後二千二百二十余年今に寿量品の仏と肝要の五字とは流布せず、当時果報を論ずれば恐らくは伝教・天台にも超え竜樹・天親にも勝れたるか、文理無くんば大慢豈之に過んや、章安大師天台を褒めて云く「天竺の大論尚其の類に非ず真旦の人師何ぞ勞しく語るに及ばん此れ誇耀に非ず法相の然らしむるのみ」等云云」

一仏滅後二千二百二十余年の間、いまだに法華經寿量品文底の仏と、肝要の妙法蓮華經の五字は流布していない。(その大法を流布している)現在の(私の)果報を論じるならば、おそらくは伝教大師や天台大師にも超え、竜樹や天親よりも優れているであろう。(みずからこう言うことは)文証・理証がなければ、これ以上の大慢心があるだろうか。(しかし、きちんと文証・理証の裏づけがあるゆえに少しも慢心ではない)章安大師は、(師の)天台大師をほめて「インドの大智度論でさえ、それ(天台の法門)に肩を並べるものではない。中国の人師の書など、どうしてわずらわしく語る必要があるだろうか。これは誇り、おごっているのではない。説かれた法理の内容が、そうさせるのである」等と言っている一と。

「日蓮又復是くの如し竜樹天親等尚其の類に非ず等云云、此れ誇耀に非ず法相の然らしむるのみ、故に天台大師日蓮を指して云く「後の五百歳遠く妙道に沾わん」等云云、伝教大師当世を恋いて云く「末法太はだ近きに有り」等云云、幸いなるかな我が身「数数見擯出」の文に当たること悦ばしいかな悦ばしいかな」一日蓮もまた、このとおりである。竜樹や天親等でさえ日蓮に肩を並べるものではない。これは誇り、おごっているのではない。法理の内容がそうさせるのである。ゆえに天台大師は、日蓮を指して「後の五百歳(末法)に遠く妙法によって世は利益されるであろう」と述べている。また伝教大師は、現在の(大聖人の)世を慕って「末法は非常に近くにある」と言っている。何と幸せなことであろう。我が身(大聖人)は「しばしば所を追われる」という経文に当てはまっている。なんと悦ばしいことであろう。なんと悦ばしいことであろう一。文証・理証を離れて仏法はない。「誇り、おごって言うのではない。法理の内容からの当然の主張なのである」と。これが、御本仏の御確信であられた。一と。池田先生は、「寿量品の仏」とは日蓮大聖人であると、完璧にご指導なのです！

そして、池田先生の「御義口伝講義」には一此の妙法蓮華経は积尊の妙法に非ざるなり一と明記されています。

法華経の智慧
下 174
11 11
下 141

神力品は箇の大事の一番目

第一 妙法蓮華経如来神力の事

本文

第一 妙法蓮華経如来神力の事

文句の十に云く神は不測に名け力は幹用に名く不測は即ち天然の体深く幹用は則ち転変の力大なり、此の中・深法を付属せんが為に十種の大力を現す故に神力品と名くと。

御義口伝に云く此の妙法蓮華経は积尊の妙法には非ざるなり既に此の品の時上行菩薩に付属し給う故なり、惣じて妙法蓮華経を上行菩薩に付属し給う事は宝塔品の時事起り・寿量品の時事顕れ・神力属累の時事竟るなり、如来とは上の寿量品の如来なり神力とは十種の神力なり所詮妙法蓮華経の五字は神と力となり、神力とは上の寿量品の時の如来秘密神通之力の文と同じきなり、今日蓮等の類い南無妙法蓮華経と唱え奉る所の題目なり此の十種の神力は在世滅後に亘るなり然りと雖も十種共に滅後に限ると心得可きなり、又云く妙法蓮華経如来と神との力の品と心得可きなり云云、如来とは一切衆生なり寿量品の如し、仍って积にも如来とは上に积し畢ぬと云えり此

★ 积尊の妙法ではない、と御断言

第一 妙法蓮華経如来神力の事

四七一

池田先生は「御義口伝講義」で下記のようにご指導です。このご指導より、「寿量品の仏」は、日蓮大聖人であり、決して、釈尊ではない！

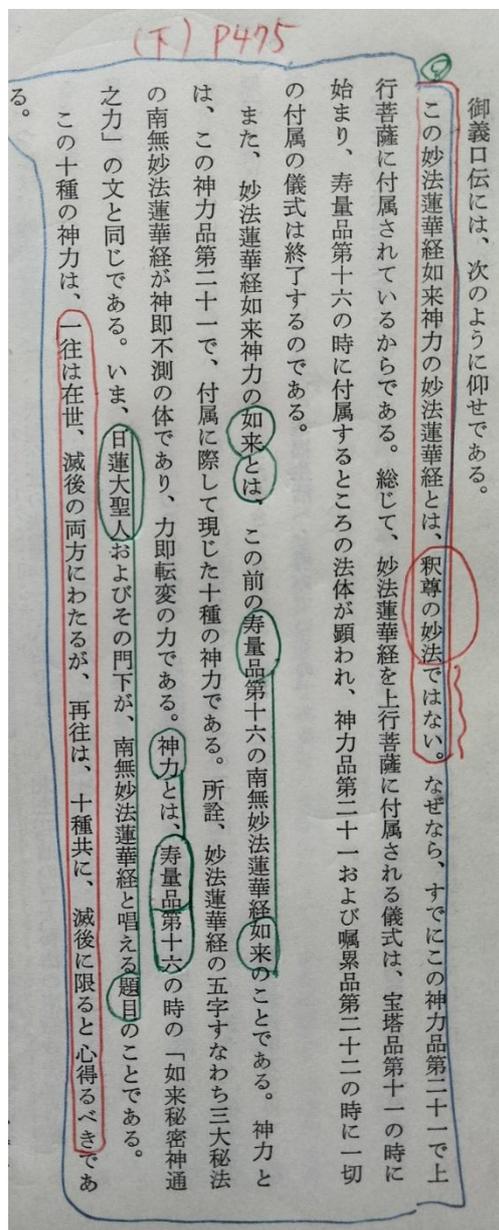
さらに、池田先生の「御書の世界」第2巻211, 212頁には一

名誉会長 中央の「南無妙法蓮華經」は根源の真理を示すものです。いうなれば、生命宇宙の中心軸なので、虚空会の中心に屹立する宝塔で示されている。その左右に釈迦仏と多宝如来がいる。これらは妙法蓮華經のはたらきを示す仏です。多宝如来は、過去仏であり、永遠の真理を表す。智慧の対境(対象)としての法を示しています。釈尊は、現在仏です。法を現実に悟る智慧を表している。まさに南無妙法蓮華經の二つの側面です。二仏並坐とは、真理と智慧の一致、境智冥合を示すものです。

森中 大聖人は「此の境智の二法は何物ぞ但南無妙法蓮華經の五字なり」(1055頁)と仰せです。

斉藤 迹門で示された永遠普遍の真理(迹門不変真如の理)と、真理に基づきながら具体的な現実の縁に随って発揮される本門の智慧(本門随縁真如の智)とも重なるものではないでしょうか。

名誉会長 当然、そうなります。大事な点は、釈迦・多宝を本尊とするのではない、ということです。釈迦・多宝も南無妙法蓮華經によって成仏したのです。どこまでも、成仏の根源の法である南無妙法蓮華經を本尊とするのです。そのことは御本尊の相貌で、南無妙法蓮華經が中央に大きく認められ、その左右に釈迦・多宝が位置していることにも明らかです。一と。



また、「御書の世界」第2巻160, 161頁には—
齊藤 「日蓮がたましひ」を本尊とされている御文を拝読します。多くの同志が心に刻んできた有名な御文です。「日蓮がたましひをすみにそめながして・かきて候ぞ信じさせ給へ、仏の御意は法華経なり日蓮が・たましひは南無妙法蓮華経に・すぎたるはなし、妙楽云く『顕本遠寿を以て其の命と為す』と釈し給う」(一一二四頁) 〈通解〉(この御本尊は日蓮の魂を墨に染め流して書いたのである。信じていきなさい。仏の御心は法華経である。日蓮の魂は南無妙法蓮華経にほかならない。妙楽大師は「久遠の寿命という仏の本地を明かしたことをもって法華経の命とする」と述べている。

名誉会長 南無妙法蓮華経は御本尊の根本であり、当体です。そのことは、**御本尊の中央に大きく「南無妙法蓮華経 日蓮」と認められていることから明らか**です。大聖人は三類の強敵として襲いかかってきたあらゆる魔性に打ち勝ち、竜の口の法難の時に永遠の妙法と完全に一体となる御境地を成就された。それが久遠元初自受用身の御境地です。いわゆる発迹顕本（迹を発いて本を顕わす）です。大聖人の凡夫の御生命に久遠元初自受用身という本地を顕されたのです。

齊藤 本地とは、本来の境地という意味です。これは、人と法が一体の御境地です。森中人法一箇のこの御境地は、元初の妙法の無限の力が、何の妨げもなく、現実に生きる人間の生命に成就されている真の仏界であると拝されます。

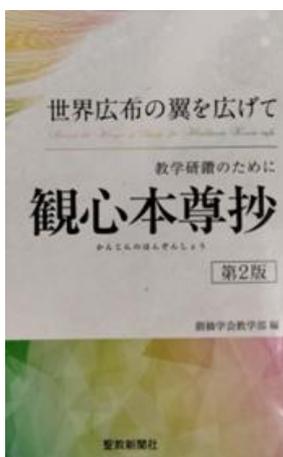
名誉会長 人間生命への妙法の清浄なる開花、すなわち妙法蓮華経です。魂それが「日蓮がたましひ」です—と。

また、親友中村誠氏から以下頂きました。こちら「**寿量の仏**」についての鋭い論考であり、正論と拝します。

—2018年発刊の新・人間革命27巻に—「月を「本」とすれば、池に映った月は「迹」である。また、「門」とは法門のことである。この「本」と「迹」をもって、法華経二十八品を立て分けると、前半十四品は「迹門」となり、後半十四品は「本門」となる法華経の前半は、初めて菩提樹の下で成道した釈尊の所説を記した経文であるからだ。その釈尊は、**仏が衆生を救うために顕した仮の姿、迹仏にすぎないのだ。**一方、法華経の後半が「本門」となるのは、釈尊が五百塵点劫の久遠の昔に成仏していたという、仏の本地、**真実が明かされた法門であるからだ。久遠以来、仏は、この娑婆世界で永遠に戦い続けている**—これが本門の教えである。

伸一は力説した。日蓮大聖人の法華經文底から見れば、南無妙法蓮華經が「本」であり、文上の法華經は、迹門、本門ともに「迹」となるのであります。それは南無妙法蓮華經こそが、末法流布の大法であるからです—と。

(中村氏は)—ここには、寿量の仏のことは何も説かれていませんが、法華經の本迹を月に、題目を日に喩えてますから、ここで寿量の仏を釈迦と解釈する余地は消えます。寿量の仏が釈迦であるならば、寿量品が日で、方便品が月でなければなりません。従って、寿量の仏を釈迦とするのであれば、この記述と反します。—と。



また、一昨年末の青年部1級教学試験の教材だった—
観心本尊抄第2版(2024年5月3日刊)186頁には—

「かくのごとき本尊は」として示された本門の本尊が正法・像法時代の釈尊像よりもはるかに優れた本尊であることを明らかにするために、それらの釈尊よりも優れた仏である「寿量の仏」(寿量品の仏)について述べられている—と記されているが、これは、この書の半年前に発刊の「教学要綱」の—釈尊が「寿量の仏」—と完全に齟齬、相反する！この不整合、否、デタラメは一体、何だ！

また、この第2版の6年前、2018年発刊の初版186頁には、さらに明確に以下の記述がある—

「本門の本尊」は、釈尊・多宝という偉大な仏を脇士とする。これは、「本門の本尊」である南無妙法蓮華經こそが、これらの仏をも生み出した根源の仏種であることを端的に示すものである。このような本尊は、正像には、いまだかつてなかったのである。ここで「寿量の仏」と言われているのは、寿量文底下種の法、すなわち寿量品の文の底意として示され末法の人々に説き示して信受させるべき法を体現している仏—という意味である—と、第2版よりも明確だ。

それなのに、その後、2023年、「教学要綱」では—釈尊が「寿量の仏」—へと、急に改変！こんなデタラメ、それも、日蓮が魂である曼荼羅御本尊—について論述の観心本尊抄講義との不一致は言語道断、日蓮大聖人様への最悪の大謗法である！ 求道心があり、青年部1級教学試験の真剣な受験者は「教学要綱」を読み、また、観心本尊抄を読んで、どっちが正しい？と迷ったに違いない！これほどまでに、青年部を愚弄することは許せない！ 9/14

池田先生は「教学要綱」への破折文証として「法華經の智慧」(第4巻56頁)で—**釈尊の師は南無妙法蓮華經如来**—と明確にご指導されています。

それなのに「教学要綱」を池田先生の監修とするのは全く整合性がない！よって、上記は、まさに、主従逆転そのものの邪義と断言する。

池田先生の日蓮本仏論のご指導、他

「法華經の智慧」第4巻52～58頁 如来寿量品—

遠藤 始成正覺の釈尊は、その久遠の本仏が衆生を救うために、衆生に応じて出現した「**垂迹の仏**」です。「迹」とは、本体に対する影(映像)であり、仮の姿という意味です。齊藤 いわゆる「迹仏」ですね。本仏と迹仏の関係は、「天の月」と「池の月」に譬えられています。実体の月と、池の水に映った月のような違いがある、と。須田 法華經の前半十四品を迹門、後半十四品を本門と立て分けるのも、この「迹仏」と「本仏」の違いに基づくものですね。

池田 日蓮大聖人は、本門と迹門の違いについて「水火天地の違目」であるとされている。水と火、天と地ほども違う、と。「爾前經と法華經迹門との違い」よりも、はるかに大きな違いがあることを強調されています。それは、この発迹顕本があるからです。(略)

釈尊の師は南無妙法蓮華經如来

池田 **法と人(仏)は本来、不可分なのです**。「如来」というのも「如(真如・眞実の世界)からやって来たもの」ということです。すなわち「如来」とは、眞実の「法」が現実の上に表れたのです。宇宙生命に”人”の側面と”法”の側面があり、それが**一体**なのです。少しむずかしいかもしれませんが、大事なところなので、もう少し言っておこう。釈尊の說法に「法を見る者は我を見る、我を見る者は法を見る」(相応部經典(犍度篇)「長老品・跋迦梨」)という言葉がある。法を体得すれば釈尊に会うことができ、釈尊に会えば法を悟れるという意味です。「我を見る」の「我」とは、根本的には「永遠の法」と一体となった「永遠の仏」です。

寿量品では、永遠なる「常住此說法(常に此に住して法を説く)」(法華經四八九ページ)の仏身を説く。**文上の法華經では、五百塵点劫以来の「久遠実成の釈尊」のことだが、その指向しているのは無始無終の「久遠元初の仏」**です。釈尊が悟った「永遠の法」即「永遠の仏」は、あらゆる仏が悟った「永遠の大生命」であった。過去・現在・未来のあらゆる仏は、ことごとく釈尊と同じく「久遠元初の仏」を師として悟ったのです。それが**久遠元初の自受用身であり、南無妙法蓮華經如来**です。戸田先生は言われた。

「日蓮大聖人の生命というもの、われわれの生命というものは、無始無終ということなのです。これを久遠元初といいます。始めもなければ、終わりもないのです。大宇宙それ自体が、大生命体なのです」と。無始無終で慈悲の活動を続ける、その大生命体を「師」として、「人間・釈尊」は人間のまま仏となったのです。そして、悟ったとたん、三世十方の諸仏は皆、この人法一箇の「永遠の仏」を師として仏になったのだとわかったのです。

また、講義「御書の世界」(上) **人本尊開顕と法本尊開顕** には一
斎藤 日蓮大聖人の御立場から、竜の口以降の足跡を簡単に確認しておきたいと思いま
す。日蓮大聖人が佐渡期に著された御書の中核は、なんとといっても「**開目抄**」「**観心本尊
抄**」の二書です。いうまでもなく、それぞれ、「人本尊開顕」と「法本尊開顕」という重
大な意義があります。両著作は、日蓮大聖人が御本尊を顕され、全人類を救済していかれ
る筋道を明確にする内容となっていますね。

池田 「**開目抄**」は「**人本尊開顕**」の書です。日蓮大聖人が御本尊を御図顕さ
れるにあたって、御本尊を御図顕する日蓮大聖人とはいかなる方なのかを明らか
にされています。(中略) 死身弘法という具体的な振る舞いを通して、尊極
の法と一体の御内証を示されているのです。その「**実例**」によってしか、人生
の究極の意味としての「**本尊**」、つまり「**永遠の法**」と一体の「**永遠の仏**」と
いう尊極の生命は示せない。そこに「**人本尊開顕**」の書である「**開目抄**」を著
された深い意味があると拝したい。(中略) 次に「**法本尊開顕**」の書である
「**観心本尊抄**」ですが、今度は、御内証を御本尊として顕されることについて
徹底的に示されている。

斎藤 大聖人の内なる御本尊を、皆が拝せる御本尊として顕すことですね。

池田 そう。なぜ顕す必要があるのかを拝察するならば、一つは佐渡に流され
ていつ帰ることができるかわからないし、また、佐渡ではお命が狙われてい
る。当時の弟子たちのためにも、末法における正しい法華経信仰の規範を示す
必要があられたと拝したい。また、もう一つは、より重要なことですが、御入
滅後の令法久住・広宣流布のために大聖人が凡夫として成就された仏界涌現の
道を正しく残す必要があった。ゆえに、「**観心本尊抄**」では、**南無妙法蓮華経**
こそが法華経の肝要であり、南無妙法蓮華経を受持していくことが、大聖人と
同じく凡夫の身で仏界を顕していくための根幹であることを示されていくので
す。いわゆる受持即観心の法門です。 11/14

「観心」とは己心に十界の生命を見ることです。特に、現示がたい仏界の生命を己心に涌現することです。そのために本尊とすべきは妙法蓮華經の五字であると、「法」を明示されているのです。

斎藤 「開目抄」では「法華經の行者」としての全人格的な御振る舞いを通して妙法と一体の大聖人の御内証が指し示されます。これに対して「観心本尊抄」では大聖人の御内証に明らかになった本尊の核心が妙法蓮華經の五字であることを示されているわけです。

池田 それが「本尊抄」の前半、いわゆる受持即観心を明かされているところ
です。後半は、大聖人が本尊を顕すことができる資格を論じられている。

森中 はい。大聖人が、法華經で釈尊から妙法蓮華經の五字を付嘱された地涌の菩薩の再誕であることが示されています。ただし、まだ、地涌の菩薩の棟梁・上行菩薩の再誕であることは明示されていませんが、その意を含んでいることは明らかであると思います。

池田 いずれにせよ、「開目抄」「観心本尊抄」の両方が、ある意味では補いあ
うことによって、末法の御本尊御図頭の意義が鮮明にされている。両書によっ
て、日蓮大聖人の仏としての化導の意義がはっきりします。

斎藤 「未曾有の大曼荼羅」ともいわれますが、いかに日蓮大聖人が用意周到に進めていかれたかが浮き彫りになります。

池田 一言で言えば、日蓮大聖人が、久遠元初自受用身如来を証得されていく
までの戦いの御姿が示されているのが「開目抄」です。そして、久遠元初自受
用身如来の御境地にある末法の御本仏として、全人類の救済のために、御本尊
を御図顕していくことが示されているのが「観心本尊抄」です。一と。

上記、池田先生のご指導より、「教学要綱」は邪義の書と断定される。

この拙文を親しき友人にお伝え下さい。そして、皆様の忌憚なきご意見、ご指導を、kiroibara.526@gmail.com にお問い合わせ申し上げます。 敬具 図齊修

私の記した、自活サイト掲載の拙文です。ご参考下さい。

(アテンション7編)

2025. 1. 16 池田先生の「法華経 方便品・寿量品講義」の「改ざん」の実態が一目瞭然！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/uO8aTHHsn1Uq1oGgI>

2025. 2. 20 教義改竄の実態を具体的に解説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rUvbUCzMZRZbgMZN9>

2025. 4. 15 戸田先生のご指導とも大違背の「新版 法華経方便品・自我偈講義」の邪説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/QyfOUjtjPR4M56JeM>

2025. 5. 7 凶斎氏が追撃弾！全く反論不能の現創価学会 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/4nbtX3NTNkpJrbssF>

2025. 8. 24 池田先生入信記念日に、破邪顕正の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/YDDWNXEzTIfXcgm5W>

2025. 9. 12 凶斎氏が「教学要綱の不正」の続編を発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/pX63bWIXdPfnXGJUI>

2025. 11. 18 創立 95 周年を期して、凶斎氏が悪書「教学要綱」に更なる鉄槌の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/DcQaf0Yo9GmOx50A5>

(宗学コラム 16編)

2025. 9. 29 「現代誤訳 四信五品抄 本尊問答抄」を読んで - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rxk8T0hxyy552wGO9>

2025. 11. 28 魂の独立記念日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/HhDdCFoFwSVkEpyV>

2025. 12. 8 創立 95 周年、年末に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/ngk4Ij0YlJN72ltCL>

2025. 12. 13 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/3bnY4oR23fnDlsOWn>

2025.12.18 (続) 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！ - AI が聖教新聞の不可解で詐欺的な文献引用姿勢を解説！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/gst62rydMRpYdfxLk>

2026.1.2 池田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/7Mw8y9QBF7JYNknVw>

2026.1.3 (続) 池田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/cjLL8ideWXGxQtdva>

2026.1.10 (更なる続き)池田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 池田先生の著作指導の AI 検索化への疑問 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/qMXKT1RxcValTz3rS>

2026.1.18 「御義口伝講義」を改竄の「我らは地涌の菩薩なり」を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/10L0rreurRQPmPSQE>

2026.2.11 戸田先生のご生誕日に思う - 「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/CdecUV1NhwTWEihyZ>

2026.2.11 戸田・池田両先生のご指導に違背した大白蓮華1月号を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/PtMsZ4fNQNZbCYj8r>

2026.2.16 日蓮大聖人のご生誕日に思う - 近刊「法華経入門」の不正 池田先生が「法華経の智慧」でご指導された日蓮仏法の真義を無視する不知恩の書 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/deY6hFeRD9rDYmoKs>

2026.2.26 (続) 日蓮大聖人のご生誕日に思う - 近刊「法華経入門」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/RHxWjzbzGsiRq7CSwp>

2026.2.28 「開目抄」ご執筆の二月に思う新刊-「御書根本」の大道-の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/vwHKdmkzPDHsMWKOz>

2026.3.16 3.16 に思う - 新刊「御書と師弟」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/EP88GIsjWEMdbOTPG>

2026.3.20 「寿量の仏」を釈尊と回答する「SOKA D.I. SEARCH」の不正 御本尊様の相貌について大謗法の検索は即刻、廃止すべきである - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/lcZem0F3ELamfWU0Z> 以上 14/14